

## 論文内容要旨

論文題名 Lung diseases directly associated with rheumatoid arthritis  
and their relationship to outcome  
(リウマチ関連肺疾患とその予後との関係について)

掲載雑誌名 European Respiratory Journal

Vol. 37 No. 6 1411-1417 2011 年掲載

専攻名 内科系 内科学 呼吸器・アレルギー内科学分野  
氏名 土屋 裕

## 内容要旨

＜目的＞リウマチ関連肺疾患 (RA-LD) は非常に多彩だが、すべての RA-LD における死因や予後について検討した大規模な報告はこれまでにない。特発性間質性肺炎 (IIPs) においては、usual interstitial pneumonia (UIP) は nonspecific interstitial pneumonia (NSIP) に比べ予後が悪いことが報告されているが、RA-LD においては不明である。今回我々は、各 RA-LD とその予後との関係について検討した。

＜方法＞1996年4月から2006年3月までに呼吸器症状にて受診した277例の RA合併肺疾患のうち、肺感染症、肺癌、薬剤性肺炎などRAに直接関連しないものを除いた計144例のRA-LDについて、背景、血液データ、肺機能、RA およびRA-LDに対する治療、死因及び予後について後ろ向きに調査した。各RA-LDの危険因子の検定にはFisher正確検定かKruskal-Wallis検定を用いた。各RA-LDの予後の評価にはKaplan-Meier法を用いlog-rank検定にて評価した。UIPとそれ以外のRA-LD間でのhazard ratio (HR)をCox回帰分析にて分析した。すべての検定において有意水準を $p$ 値<0.05とした。

＜結果＞RA-LD 全体の背景は、平均年齢  $65.2 \pm 9.8$  歳、女性 84 例だった。各 RA-LD の内訳は、UIP57 例、気管支拡張症 31 例、NSIP16 例、細気管支

炎 11 例、organizing pneumonia (OP) 及び diffuse alveolar damage (DAD) 各 5 例と、重複疾患 19 例だった。UIP、OP、DAD は男性、喫煙者に多く、細気管支炎は RA 早期発症で RA 罹患期間が長く、ステロイド未使用例が多かった。予後については全 144 例のうち 71 例 (49.3%) が死亡し、うち 58 例 (81.7%) は呼吸器疾患で死亡した。5 年生存率は RA-LD 全体では 60.1% で、各 RA-LD では UIP 36.6%、気管支拡張症 87.1%、NSIP 93.8%、細気管支炎 88.9%、OP 60.0%、DAD 20.0% だった。DAD の予後は有意に UIP より悪かった (HR 2.892,  $p=0.026$ )。また気管支拡張症、NSIP、細気管支炎の予後は UIP に比べ有意に良かった (HR 0.158,  $p<0.001$ , HR 0.116,  $p=0.003$ , HR 0.247,  $p=0.020$ )。

＜結論＞RA-LD の予後は各疾患により異なっていた。DAD は死亡率が最も高く UIP に比べて予後が悪かった。対して NSIP の死亡率は最も低く、UIP と比べ予後が良かった。また RA-LD の 8 割以上が肺疾患で死亡していたことから、RA-LD それぞれに対しての有効な治療法の確立と、肺感染症を含めた肺合併症に対する適切な治療による予後の改善が望まれる。